

留学報告書

記入日:2016年3月7日



所属学部／研究科・学科／専攻	商学部商学科
留学先国	イタリア
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	和文: ヴェネツィア大学 現地言語: Università Ca'Foscari Venezia
留学期間	2015年9月～2016年1月
留学した時の学年	3年生(渡航した時の学年)
留学先での学年	1年生(留学先大学で在籍した学年)
留学先での所属学部等	<input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部等に所属しなかった。
帰国年月日	2016年2月12日
明治大学卒業予定年	2017年3月
留学先大学について	
形態	<input checked="" type="checkbox"/> 国立 <input type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他
学年暦	1学期:9月中旬～1月下旬 2学期:2月上旬～6月
学生数	約20,000人
創立年	1868年

留学費用項目	現地通貨(ユーロ)	円	備考
授業料	0	0円	
宿舍費	1,525	213,500円	9月～11月:320ユーロ/月 12月～1月:270ユーロ/月 クリーニング代:25ユーロ
食費	1,500	210,000円	
図書費	130	18,200円	
学用品費	20	2,800円	
教養娯楽費	1,500	210,000円	
被服費	194	27,160円	
医療費	0	0円	
保険費	345	48,360円	形態:大学指定のもの
渡航旅費	842	117,890円	
雑費	379	53,060円	携帯電話、インターネット代
その他	155	21,700円	滞在許可証
合計	6,590	922,670円	1ユーロ=140円で換算

渡航関連

渡航経路: 関西国際空港→イスタンブール→ヴェネツィア

渡航費用

チケットの種類 ターキッシュエアラインズ
 往路 _____
 復路 _____
 合計 ¥117,890

渡航に際して利用した旅行会社やガイドブックを教えてください。

航空券は大学のキャンパスデスクで手配していただきました。

滞在形態関連

1) 種類(留学中の滞在先)(例: アパート、大学の宿舎など)

学生寮(ESU Junghans)

2) 部屋の形態

 個室 OR 相部屋(同居人数 _____)

3) 住居を探した方法:

大学の Housing Office の斡旋

4) 感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

キッチンも Wi-Fi もないのでお勧めはできません。

現地情報

1) 現地で病院にかかったことはありますか? 大学内の医務室/診療所や付属病院等で医療サービスを受けることは可能でしたか?

利用する機会が無かった
 利用した:

2) 学内外で問題があったときには誰に相談しましたか。留学先大学に相談窓口はありましたか。

大学のバディーや友達に相談しました。

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

危険情報が入った時は、ミラノ領事館から連絡が来ます。治安の良い島なので、特に犯罪に巻き込まれることはありませんでした。

4) パソコン、携帯電話、インターネット(接続について)現地での利用はいかがでしたか。

(例: 寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WiFi 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

私が滞在了寮には Wi-Fi がなかったので、寮ではポケット Wi-Fi を利用していました。Internet Key を寮で借りることもできますが、使えないパソコンが多いです。大学や観光地では Wi-Fi に繋がれず、Wi-Fi のあるカフェもあります。

5) 現地での資金調達はどのように行いましたか? (例: 現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

クレジットカードと新生銀行の海外 ATM 利用で十分でした。

6) 現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えてください。

肌が弱くてアジア人向けの基礎化粧品を使用している人は、現地で購入できない可能性があります。

卒業後の進路について

1) 進路
<input checked="" type="checkbox"/> 就職 <input type="checkbox"/> 進学 <input type="checkbox"/> 未定 <input type="checkbox"/> その他:
2)進路決定の際に参考にした資料、図書、機関など
3)就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、或は入社すると決定した企業の名前のみでも構いません)
4)就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスがありましたらお書き下さい。 (例: 留学中の就職活動へ向けた準備, 帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。)
5)進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。
6)進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)がありましたらお書き下さい。
7) その他を選択した方は、留学希望者に向けたアドバイスがありましたらお書き下さい。

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入してください)

1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
24 単位	<input checked="" type="checkbox"/> 6 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)
2)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Economics of Rural Development	農村開発経済学
科目設置学部・研究科	経済学部
履修期間	1 st term
単位数	6
本学での単位認定状況	2 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式
授業時間数	1週間に 90 分が 3 回
担当教授	Zolin Maria Bruna 先生
授業内容	主に欧州における農村開発政策について
試験・課題など	試験は記述 課題は自分の国もしくは地域の農村政策の現状に関する簡単なレポート
感想を自由記入	非常に興味深い内容でした。授業で解説されるのは主に欧州の農村開発についてでしたが、後半の授業では他の国を取り上げたり、またそれぞれの生徒の国や地域の農村開発に関する情報を先生を通じて共有できました。日本の農村開発について今まで考えたこともなく、非常に良い機会になりました。先生の英語は少し訛りが強くて、慣れるために時間を要しました。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
International Business Strategy	国際経営戦略論
科目設置学部・研究科	経営学部
履修期間	2 nd term
単位数	6
本学での単位認定状況	2 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式とディスカッション
授業時間数	1週間に 90 分が 3 回
担当教授	Zirpoli Francesco 先生
授業内容	経営戦略に関する基本
試験・課題など	試験は記述
感想を自由記入	もともと IT 系のエンジニアリングをしていらっしゃった先生が担当教授だったこともあり、取り上げる企業は Apple や Sony などが多く、たくさんの日本企業の事例も出していただけで、非常に身近な感覚で授業を受けることができました。講義の授業でも生徒の発言が積極的に促される授業だったので、お互いの疑問や意見を共有しながら受講できました。試験は出題範囲が広く、勉強と記憶に非常に苦労しました。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Intercultural Communication	異文化コミュニケーション
科目設置学部・研究科	国際関係研究科
履修期間	1 st semester
単位数	6
本学での単位認定状況	2 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式
授業時間数	1週間に 90 分が 1 回
担当教授	Pavan Elisabetta 先生
授業内容	異文化コミュニケーションに関する理論とケーススタディ
試験・課題など	課題は随時出る 試験は記述とエッセイに関するプレゼン
感想を自由記入	この授業は、3年間のラウレアと呼ばれる期間を終えたマジストラーレという日本の学士と博士の間にある段階の人たちのための授業でした。ラウレアの授業よりも授業に対する姿勢が積極的な人が非常に多く、活発なクラスでした。先生の講義内容がとても面白く、先生自身も非常に親身に優しい方で、今回の留学でいちばん楽しい授業となりました。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Italian for foreigners	留学生のためのイタリア語
科目設置学部・研究科	カフオスカリサマースクール
履修期間	1 st semester
単位数	6
本学での単位認定状況	0 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	一般的な言語の授業と同形態
授業時間数	1週間に 150 分が 3 回
担当教授	Daloiso Michaele 先生
授業内容	イタリア語(A2)
試験・課題など	ライティングの課題、オーラルテスト、ウェブテスト、記述テストで評価
感想を自由記入	20 人弱のクラスで非常にアットホームでした。A2 ではありませんが、先生はイタリア語でバリバリと進めていくスタイルでした。1 回の授業が 2 時間半という長丁場であり、長時間イタリア語を聞くことに不慣れだったので苦労することもありましたが、クラスのメンバーと協力しながら、楽しくイタリア語の勉強ができました。

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。例：語学試験の勉強、選考、出願、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等（形式は箇条書きなど簡単なもので構いません）

2014年 1月～3月	春休みにシンガポールへ語学留学をする
4月～7月	留学について考え始め、留学カウンセリングに行く
8月～9月	
10月～12月	IELTS 受験 出願・選考
2015年 1月～3月	
4月～7月	大学に登録する 航空券と保険を手配する
8月～9月	準備・出発
10月～12月	授業(テストは10月末、12月中旬)
2016年 1月～3月	テスト・課題提出 帰国
4月～7月	就職活動
8月～9月	就職活動
10月～12月	

留学体験記

留学しようと決めた理由	日本で受講していた授業の中で取り扱った異文化コミュニケーションについて、より広範に実践的な環境で学びたいと思ったからです。日本で受講している限り、クラスメートは日本をベースとした文化的背景を持つ人々で構成されており、同じ文化的背景でも育った地域や環境などによってそれぞれ異なる考えを持っていますが、もっと広範な文化的分類に関するケーススタディなどに出てくる文化的差異に関する情報が、どうしても文献に基づくものだけになっていました。自らが異なる文化圏に飛び込むことによってその差異を直に感じることに、知ることができると思ったからです。
留学のためにした準備、しておけば良かったと思う準備	協定留学をするためには、まず最初に学内選考で合格する必要があります。そのため語学能力資格の取得や明治大学での成績の維持はもちろん、自分の留学に関する意識や目的に関する分析を行って明確なビジョンを持つように心がけました。派遣が決まった後は、英語圏での応募ではありましたが生活言語はイタリア語となるので、英語の学習を疎かにしないよう気をつけながらも、イタリア語の学習も行いました。また、自分が受講しようと思っている授業に関する予備知識も少し勉強しました。生活面に関しては自分が日頃使っている生活用品の調達はもちろん、寮の状況に応じた準備も行いました。私は寮にレンジしかないとのことでしたので、シリコンスチーマーを持って行きました。非常に重宝しました。
この留学先を選んだ理由	まず、ヴェネツィア大学の異文化コミュニケーションの授業内容が自分が学びたいことに合致していたことが挙げられます。また、シラバスを確認した上で自分が受けたいと思う授業があったからです。その他には、英語をあくまでコミュニケーションツールの一つとして扱う上で、英語に不慣れなノンネイティブに囲まれて英語で学ばれたこと、そして、1年生の時に受講したことがきっかけで細々と続けていたイタリア語の能力をより実践的にしたかったことがヴェネツィア大学を選んだ理由です。
大学・学生の雰囲気	ヴェネツィアという非常に平和な島に存在するこの大学は、この島の雰囲気と同様に非常に朗らかな雰囲気のところでした。学部ごとにキャンパスの場所が異なることもあり、キャンパスごとに生徒の雰囲気が違って、そこもまた魅力的でした。校舎は非常に古い建物も多くありましたが、それが学習において弊害となることはありませんでしたし、図書館などは綺麗に整備されているところも非常に多かったです。もちろん人によってそれぞれですが、図書館に行けば一生懸命勉強している生徒がたくさんいて、良いモチベーション向上のきっかけとなりました。
寮の雰囲気	私が滞在した寮は寮自体で何かイベントを頻繁に行ったりすることはありませんでしたが、ほとんどが同じヴェネツィア大学に通う留学生だったので知り合いも多く、過ごしやすかったです。授業と一緒にいたり、一緒に帰ったりしやすい雰囲気でした。イタリア人の寮生たちも、私たちを優しく見守ってくれているようなとても温かい場所でした。英語はあまり通じませんが、レセプションやメカニック、清掃の方々も非常に優しく親身な方たちでした。
交友関係	他国からやってきた留学生達とは、複雑な街と複雑な大学のシステムを理解していく上で仲良くなれます。イベントや旅行をたくさん行う学生組織もあります。有名な日本語学科があるということもあり、日本人とイタリア人の交流イベントが頻繁に行われており、自分が積極的に関わることによってイタリア人の友達も増やしていくことができます。また、日本語学科の日本語の授業にお手伝いに行く人たちもいました。その他、自分が受講している授業で一緒になった人たちとはグループワークをしたり、意見交換をする中で仲良くなります。
困ったこと、大変だったこと	ヴェネツィアという島の特性上、到着してからしばらくの間は迷路のような道に悩まされてばかりでした。特に私は道を覚えることが非常に苦手なので、慣れるまで時間がかかりました。結局は感覚で覚えることがベストかもしれません。迷うことも多々ありますが、定期さえ買ってしまうと、どこかで行き当たるであろうヴァポレット(水上バス)の駅から自分の家まで帰ることができるので、何度も自分が使う道をチャレンジするしかありません。イタリア人や長く滞在している友人に近道(簡単な道)を教えてもらおうと、効率的に道を覚えられます。
学習内容・勉強について	私は経済学部での授業、国際関係研究科での授業、留学生用の授業を受講しました。経済学部では1年生の授業は発言が少なく、3年生の授業は発言や意見交換が多いように感じました。3年生の授業は前年度に前段階の授業を受講していることを前提としているので、予習復習は他の生徒よりもたくさんしたかもしれません。国際関係の授業は学士を一度終えている生徒たちが多く、活発な議論が多く、時に置いて行かれそうなこともありましたが、教授やクラスメートが優しくフォローしてくれました。

課題・試験について	どの授業も毎回課題が膨大にあるということはありませんでした。国際経営論のディスカッション前には提示された資料を読み込んだり、自分でもテーマに関して調べたり念入りに準備を行いました。農村開発経済は簡易ではありましたが、レポートが課された翌日が提出期限ということもありました。異文化コミュニケーションも10ページを超えるエッセイの提出がありました。テストは記述試験は決して少なくないページ数の教科書まるごと一冊が範囲で、非常に時間がかかりました。時間割の関係で多くの授業を履修していたわけではないので、それぞれ丁寧にいき、エッセイの口頭試験では教授に褒めていただく結果となり、非常に嬉しく思いました。
大学外の活動について	大学外でグループやボランティアに参加することはありませんでしたが、大学内の友達やレストラン・カフェなどでの地元の人々との交流で十分でした。どこに行っても地元の人々が気軽に話しかけてくれ、様々なことを教えてくれました。
留学を志す人へ	自分が留学に行く先で何を学びたいか、何を達成したいかを留学する前から考えておくことが大切だと思います。学習面から言えば、大学を決める時に大学のある国について考えることも大切ですが、留学先のシラバスをしっかりと読んで具体的なビジョンを描くことが大切だと思います。新鮮さを求めて留学に行くのも一つの案かもしれませんが、行った先で呆然としている時間ができてしまうのはもったいないと思います。出発前も到着後も帰国後も様々な手続きに追われて大変なこともあります。その苦勞をはるかに超える貴重な経験を経て、自身の一種の財産を手に入れられると思います。頑張ってください。

一週間のスケジュール(例)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午前中	今日の授業の予習	今日の授業の予習	部屋の掃除	授業	授業	授業	近郊に遠足または自習
	今日の授業の予習	今日の授業の予習	部屋の掃除	散歩	散歩	授業	近郊に遠足または自習
午後	授業	授業	親とskype	ゆっくり	本土に買い物	友達とランチ・おしゃべり	近郊に遠足または自習
	散歩	授業の準備	授業の準備	授業の準備	本土に買い物	自習	近郊に遠足または自習
夕刻	ゆっくり	授業	授業	授業	ゆっくり	自習	近郊に遠足または自習
夜	ゆっくり	ゆっくり	明日の予習	宿題をやる	友達と飲む	友達と飲む	次週の準備